



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



心静かに司祭生活六十年を回想

田邊 徹神父がダイヤモンド祝

鹿兒島教区司祭として最初の叙階を受けた田邊徹神父(長崎純心聖母会本部付、八十四歳)が、司祭叙階六十年のダイヤモンド祝を迎え、叙階記念日の三月二十八日(月)長崎純心聖母会本部内(長崎市三ツ山町)聖堂で、大勢のシスターたちと鹿兒島から駆けつけた郡山司教と小川、松森、泉の司祭三人、十人余りの信徒たちと一緒に喜びと感謝のミサをささげた。

田平教会(長崎教区)出身の田邊神父は、小神学校在学中に鹿兒島教区の司祭候補者となり、一九五一年三月二十八日、戦災のため失われた浦上教会の仮聖堂で山口愛次郎司教によって司祭の聖位に上げられた。この田邊神父の叙階が鹿兒島教区司祭としては初めてのものだった。

叙階された田邊神父は、すぐに鹿兒島へと赴き、二〇〇二年十一月に引退するまで五十年以上にわたり、鹿兒島教区の基礎をつくり上げるため、まさに東奔西走した。叙階後数年間は本土地区を中心に宣教司牧、その後瀬留、古田町、大笠利、名瀬聖心と奄美大島で活躍した。一九七二年からはザビエル教会主任となり、その後是指宿、名瀬聖心、種子島、志布志の主任司祭と付属の幼稚園園長を歴任、まさに鹿兒島全土で働いた司祭だ。



郡山司教の横でミサをささげる田邊神父

引退後二〇〇五年からは現在の長崎純心聖母会本部付となり、シスターたちと同会が経営母体となっている老人施設のお年寄りのために働いている。この田邊神父

の六十年前の叙階式の一日の様子を純心聖母会創立者早坂久之助司教は、次のように日記にしたためており、この日記はダイヤモンド祝ミサ開始直前に参列者に紹介された。

三月二十八日(水)、小雨。午後雨止む。

今日、午前八時三十分より浦上天主堂で叙階式。鹿兒島教区一人を含む五人の司祭と二人の助祭叙階式。十一時三十分、聖体降福式をもって終わる。式後、山口司教の車で、大浦に行った。そこで午後一

新風

たくさんさんの樹木で包まれているザビエル公園には、適度な遊具、ベンチ、そして教会側にはザビエル像を中心に置く三体のご像がある。市の中心にあることもあり、多くの人が憩い、行き交う人も多い。ベンチで休むサラリーマン、子どもをブランコで遊ばせる若い夫婦、公園を横切る人の歩みも他とは違いくっきりである。

何時でも鳩が空を舞い餌を啄んでいる横のベンチに、ちよっと気になる光景を見かけた。公園のまわりにはいくつかの病院があるのだが、そこから来られたのだろう介護士さんと患者さんが日中そのベンチに腰かけ、軽いリハビリを受け、会話を交わし帰っていかれる。私はもう何組、

いとはいえ旅立つ田邊神父の心情が思われて、参列者たちの涙を誘った。この日の田邊神父は、郡山司教の隣でミサを司式。司教の説教の間は、六十年間の司祭生活を噛みしめるように目は静かに閉じたままだった。

説教に立った郡山司教は「田邊神父は今病氣と闘っている。しかしそれでも六十年を経過しても、この地で鹿兒島のために働いて下さっている」と神父への感謝の思いを述べた。ミサ後は純心聖母会の計らいで、昼食会が開かれた。席上挨拶に立った田邊神父は、「預言者は故郷では敬われないと言われるが、私は第二の故郷鹿兒島からこのように今日のために駆けつけてくれる人がいて、またここ純心でも大切にされている。という事は私はまだ預言者ではないようだ。これからは心からみこたばを預かる預言者になりたいと思う」とユーモアを交えながらまだまだ燃え盛る思いを語った。

七時十分、田邊新司祭の初ミサ。朝食を共にした。彼のお祝いのために純心がミサワインを出した。朝食の終わり頃、一人の助祭も来た。明日九時、この三人はここを発つ。

叙階してすぐに長崎を離れ「神の国の建設」のために鹿兒島へと旅立って行く若い司祭を送り出した早坂司教の日記から、神の計ら

そんな光景を見たことだろう。心に留めたい出来事である。

ザビエル公園を包む樹木の中に二本の桜が今、満開である。(この教区報が出される頃は散っているかもしれない)。この桜に果たして何人の人が気づいているのだろうか。「野のゆ

野のゆり

りを見なさい」と主は言われる。「きょうは野にあって、あすは炉に投げ入れられる草をさえ、神はこのように装ってくださるのだから、ましてやあなたたちに対しては、なおさらのことである。」(ルカ六・27) 今春、多くの神父さまが異動なさ

高松、大分の司教決まる

教皇ベネディクト十六世は、ローマ時間三月二十五日正午、高松教区の溝部脩司教の定年による退任願いを受理し、新しい司教に大阪教区司祭の使徒ヨハネ 諏訪榮治郎神父を任命することを発表した。神戸市生まれ、六十三歳。叙階式は六月十九日(日)午後二時から高松教区司教座聖堂(高松市桜町一八一九)。



高松司教 諏訪榮治郎神父を任命することを発表した。

またカトリック大分教区の新しい司教に、長崎教区司祭のパウロ 浜口末男神父を任命することを発表した。



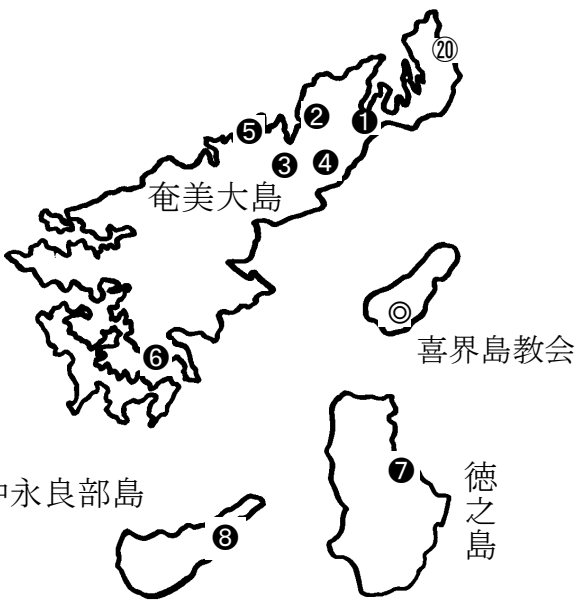
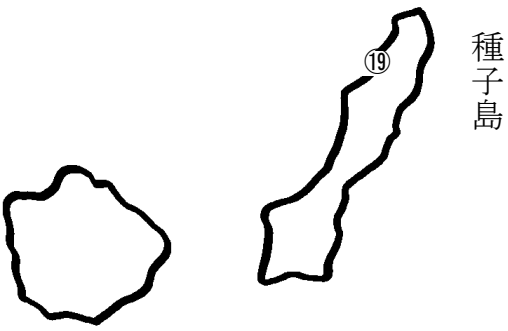
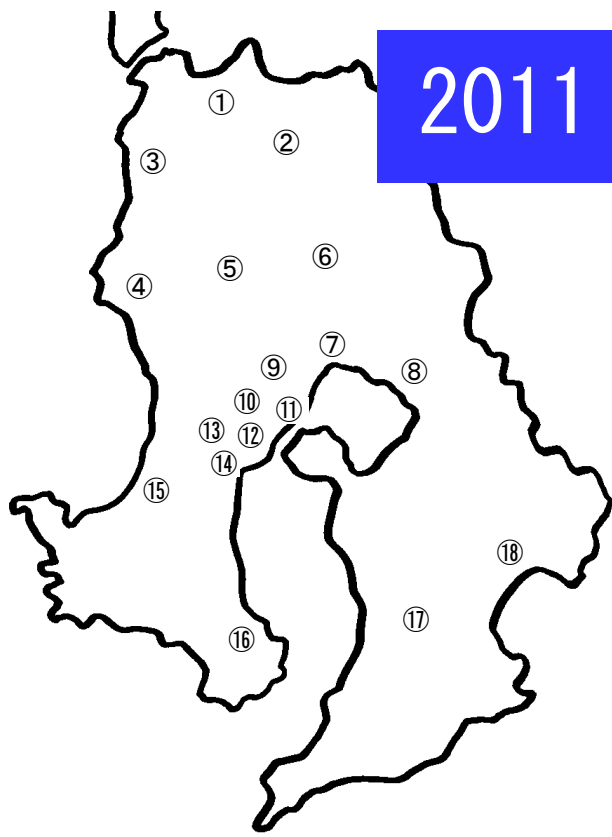
大分司教 末男 浜口神父を任命することを発表した。

長崎県生まれ、六十二歳。司教叙階式は、六月二十六日(日)十四時から別府国際コンベンションセンター「ビーコンプラザ」(別府市山の手町十二一)。

YET

先日、ドン・ボスコ社から「なみだ」と題した絵本が届いた。聖路加国際病院の細谷亮太副院長の文に、永井泰子さんが絵を付けたものだった。やさしさに満ちている筆文字の題字「なみだ」と表紙の色使いに魅かれたのはもちろんだった。葉に書かれていた柳田邦男さんのことば「悲しみにくれる人よ、なみだは心深く生きる人生への道標」から目をそらすことができなかった。ある意味、毎日を時に流されるかのように生きていく。たいした感動も持たず、たいして喜びさえ感じなくなってしまう。ましてや涙するなどという事は稀にならなくなってしまった。「心が干上がっている」そう言われても仕方がない、そう思う。▼絵本は、幼い子どもを亡くした母親の悲しみと孤独、冷たく流れる涙に始まる。それに寄り添うように生きる父親の思いやり。それでも母親の涙は止まらない。新しい命の誕生。それでも涙は止まらない。それがいつの日か、その涙を「頬を濡らしてくる」と感じるようになる。そして時が過ぎ、ご主人をも見送って一人になって涙する。あの時と違っていたのは、かつては「痛い」感じていた涙で滲む白い椿の花を今は美しいと感じていること。何十年にも及ぶ心の移ろいのドラマが、涙の滴で描かれている。悲しい絵本だが美しいと感じた▼ただ柳田邦男さんが言う「心深く生きる」が心から離れない。自分に巡ってきただとつもない悲しみから目をそらすことなく涙した椿を美しいと感じられるのでは、と思ったからだ。

# 2011年 鹿児島で働く聖職者たち



鹿児島教区長  
郡山健次郎司教



名誉司教  
糸永真一司教



①出水教会  
石田 望神父



②大口教会  
アッシャー神父



③阿久根教会  
山口重義神父



④川内教会  
ハンマ神父



⑤入来教会  
メニッヒ神父



⑥溝辺教会  
坂本 進神父



⑦始良教会  
東 研神父



⑧国分教会  
サンタマリア神父



⑨吉野教会  
牧山田一神父



⑩玉里教会  
ロベルト神父



⑪ザビエル教会  
小川靖忠神父



⑪ザビエル教会  
丸野六雄神父



⑫鴨池教会  
ティエン神父



⑫鴨池教会  
山口好信神父



⑬紫原教会  
竹山 昭神父



⑭谷山教会  
福崎英雄神父



⑭谷山教会  
ムイベルガ神父



⑭谷山教会  
フリチェル神父



⑭谷山教会  
盛 克志神父



⑮加世田教会  
泉 浩二神父



⑯指宿教会  
美島春雄神父



⑰鹿屋教会  
小隈憲士神父



⑱志布志教会  
中野裕明神父



⑲種子島教会  
タム神父



⑳大笠利教会  
松永正男神父



①瀬留教会  
栞尾泰英神父



②大熊教会  
アン神父



③名瀬聖心教会  
永山幸弘神父



④古田町教会  
平 孝之神父



④古田町教会  
柳本繁春神父



⑤小宿教会  
ドゥアン神父



⑥古仁屋教会  
榊 修神父



⑦母間教会  
大松正弘神父



⑦母間教会  
レヒナ神父



⑧和泊教会  
ハヌス神父



教区本部  
寝占敦之神父



教区本部  
ディーノ神父



教区本部  
松森孝郎神父



純心聖母会  
岡 俊郎神父



聖マリア学園  
田原 章神父

## 鹿児島教区の助祭団



鴨池教会  
桃菌淳一郎助祭



谷山教会  
久保俊弘助祭



喜界島教会  
四條淳也助祭



母間教会  
池上聖行助祭



加世田教会  
川口 茂助祭



阿久根教会  
石神秀人助祭



神学院 (東京)  
末古卓也神父



大島地区長館  
大野和夫神父



長崎恵の丘  
田邊 徹神父



東京在  
成相明人神父



出向 (横浜教区)  
浜崎真実神父

# 青年のために祈りを!

## WYDに教区から十三人が参加

八月にスペインのマドリドで開催されるWYDに教区からも十三人の青年が参加することとなった。今回のテーマは「キリストに根ざして生きる」、青年たちは世界中から集まる同じ信仰を持つ仲間たちのエネルギーの中に浸り、そこで自分たちの根を下ろすべき場所を確認しに出かける。意義深い大会参加となるように教皇メッセージを学ぶなど準備に余念のない青年たちだが、彼らを祈り支えるのが教区民の使命、大会の成功と若者たちのために祈りたい。

通り。(敬称略)  
増田 澤、岩崎信幸(以上、岡山教会)、久保篤志(溝辺教会)、池之上直美、池

## ザビエル聖堂中期祝福式に参加

浦上教会 平 三國

四月十日(日) 御受難修道会宗像修道院「福岡黙想の家」(宗像市名残)で、旧ザビエル聖堂再生の中期祝福式がありました。司式して下さったのは宮原良治福岡司教でした。私がこの式典を知ったのは昨年十一月の教区報に掲載されていたからです。鹿

之上ジョンナサン(以上、志布志教会)、松園みなみ、大山輝晃(以上、加世田教会)、杉山志文、河野里実、河野朱美(以上、鴨池教会)、林聡一郎、加治原誠(以上、ザビエル教会)、大牟礼裕香(指宿教会)。これにスペイン留学中の園田克也神

児島市照国町にあったこの旧ザビエル聖堂は、家族旅行中に訪問したこともあり思い入れがありました。そこで今回、三十五年ぶりに就航することになった奄美―福岡間の航空便を利用して参加しました。式典は、鹿児島大学のフロイデコールOBの合唱で

## 三つ目の日本初

### 司教執務室便り

鹿児島教区は日本におけるキリスト教発祥の地、諸宗教対話発祥の地。ちなみに、後者はザビエル様と忍室和尚が問答されたということを根拠とするが、実はもう一つの日本初が鹿児島教区にあることをご存知だろうか。

燃える芝の会愛の泉。世界的広がりを持つ執り成しの祈りの集まりで創立者はアメリカ人シスター。コンベンツアル・フランシスコ会の霊性を汲む単立誓願者で修道会のメンバーではない。しかし、バチカン公認のれっきとしたシスターだ。

彼女とは吉野教会にいた頃の出会いで、当時、日本での同会設立を目指したが中断。三年ほど前に再来日して一気に立ち上げ、日本本部をここ鹿児島教区に置き、愛の泉と命名し、公認された。執り成し手は岡山、関西にいるが愛の泉のメンバーということになる。ここで確認しておきたいことは、信者は誰でも執り成し手であるということだ。洗礼を受け

たときに頂いた三つの使命の一つが祭司職。祭司は、神と人との間に立つて執り成す者だからだ。ただ、愛の泉のメンバーは毎週二時間の祈りの集いを欠かさない。ところで、創立者の彼女は深い祈りの人であり、年一度愛の泉を訪ねるとともに祈り、励まし、養成する。こうして、世界各地にできた燃える芝の会を巡回する姿はパウロを髣髴とさせる。彼女は、また、宣教する教会になるためにさまざまな計画を提言する。今回は各小教区のために集中的に祈るノベナが提案された。つまり、一つの小教区のために九日間祈り続けるというもので、これを全小教区のためにすることになる。何か月もかかることになる。「集中的に祈れば、必ず驚くべきことが起こる」というのがシスターの信念。鹿児島教区を側面から支援する、こうした長期の祈りに喜んで取り組もうとする人々がいるということには本当にありがたい。実際には、愛の泉が音頭をとることになると思うが、一人でも多くの人に参加してもらいたい。鹿児島教区が世の光となるために。



学生が現地で加わるようになっていて。またスタッフとして郡山健次郎司教(団長)、泉浩二神父(教区青少年担当司祭)、石田望神父(出水教会主任司祭)、森章子さん(教区本部・アシスタント)も参加する。



始まりました。祝福式では宮原司教のお話を頂いた後、出張先から駆けつけた郡山司教が旧聖堂の思い出を語られました。そして工事に携わっている人への記念品贈呈と「続・聖堂再生プロジェクト発足」の看板の除幕(完成は二年後)、そしてザビエル合唱団による「ザビエル賛歌」の合唱で締めくくられました。この日は上天気に恵ま

## 小宿教会で堅信式

四月二日(土) から小宿小教区の黙想会(テーマ「神さまの慈しみ」)のために小宿教会に足を運んだ郡山司教は、翌三日のミサの中で四人に堅信の秘跡を授けた。またこの日は、二人の受洗者と四人の初聖体もあり小宿小教区にとって大きな喜びの日となった。ミサ後には、教会中庭で祝賀会が開かれ、大勢の信者が司教を囲んで和やかな



れ、参加者は二百人。聖堂再生が進められている福岡黙想の家の敷地にある桜も満開で一歩一歩進んでいる再生を祝福しているようでした。

## ベトナム巡礼

教区巡礼委員会主催のベトナム巡礼が三月二十日(二十四日)まで行われた。郡山司教を団長、ティエン神父を案内人とした十人の巡礼団は、ホーチミン、ニャチャン、ブンタオなどのベトナムの巡礼地を巡ったほか、ティエン神父(鴨池教会)やドゥン神父(小宿教会)の実家を訪問し家族と絆を深めてきた。

## 聖香油ミサ

聖木曜日の四月二十一日、午前十時からザビエル教会で恒例の「聖香油のミサ」がささげられた。司祭職制定の記念日にささげられるこのミサは司教と司祭の強い絆を確認するもので、教区内各地で働く大勢の司祭が司教を囲んでミサをささげ、またミサ中に祝別・聖別された三つの油を小教区に持ち帰った。交流のひとつときを過ごした。

## 5月の会と催し

- 1日(日) 復活節第二主日(神のいつくしみの主日)
- 2日(月) 宣教師学校・教区本部・18時30分〜4日まで
- 3日(火) 聖フィリポ 聖ヤコブ使徒
- 8日(日) 復活節第三主日
- 9日(月) 司祭評議会・教区本部・10時
- 10日(火) 定例司祭集会・教区本部・10時
- 14日(土) 聖マリア使徒
- 15日(日) 復活節第四主日
- 17日(火) 世界召命祈願の日
- 17日(火) ベルナルディーノ神父叙階記念日(一九九八年)
- 20日(金) ベルナルディーノ神父霊名(ベルナルディーノ)
- 22日(日) 復活節第五主日
- 28日(土) 典礼研修会・ザビエル教会・13時30分
- 29日(日) フリチエル神父霊名(ウイルヘルム)
- 31日(火) 復活節第六主日
- 31日(火) 聖母の訪問
- ▼アン神父叙階記念日(二〇〇七年)
- ▼ドゥン神父叙階記念日(二〇〇七年)

## NPO法人聖の郷ゆらいあい 「聖の郷」オープン

### 女子学生寮から高齢者共同生活の場へ転身



女子学生寮として私どもレデンブートル宣教師修道女会が経営してききました「聖母寮」は、一九六八年四月開寮以来、四十三年の間にたくさんの方々が社会に送り出してきました。しかし時代の変化に伴い、学生たちのニーズが減少してききましたので、学生寮としての役目を終えさせて頂きました。そして今年の四月からは、NPO法人「聖の郷ゆらいあい」(泉浩二理事長・加世田教会主任司祭)の経営で「聖の郷」(定員十四人)と命名し、高齢者の方々の共同生活の場として新しい歩みを始めました。現在、三人の方が入所され、「共生」「協働」「奉仕の心」をモットーに互いに助け合い、祈り合いながら生活をされています。今後とも聖母寮同様、皆さまの祈りとご協力をよろしく願っています。レデンブートル宣教師修道女会 Sr.澤 ヤエ子

### カタリナ永俊尼の信仰(下・①)

溝辺主任司祭 坂本 進

**1 天草の乱とカタリナ**  
 カタリナが寛永十三年(一六三六年)三月に種子島に配流されてから一年半ほど経った寛永十五年、天草・島原の乱が起こりました。

天草・島原の乱は、領主の圧政に抗した百姓たちが起こした百姓一揆です。寛永十四年(一六三七年)十月に島原、十一月に天草で、それぞれ決起され、一揆側が勝利を収めるに至りました。

#### 2 天草四郎とカタリナ

四郎は、一説に、行長の次男の子であり、その子を甚兵衛が引き取って養育し天草四郎になったとも言われています。すると、四郎は、カタリナの実の甥にあたります。

四郎は、小西の旧領肥後で生まれ、後に長崎に留学

「窓」「生まれた子」にまで税をかけるほどの苛酷な徴収、税を収められない百姓に対する残虐非道な拷問から、知られます。また、キリシタンに対する弾圧も苛酷・残虐さを極め、「さかさ吊るし」「みの踊り」「水牢漬け」「雲仙地獄谷への投下」など極刑が課せられました。(辻達也「島原の乱」『日本の歴史13』一九八五年版 収録。江崎俊平「天草四郎」『日本武将列伝』一九七五年版 収録)。

かかる苛酷な圧政に抗し立ち上った百姓一揆を

し学問を身につけたようです。子供の頃から、奇跡を行うカリスマ(賜物)をもっており、病人を癒したり、未来を予知する能力を有していたと、言われています。

天草の乱が起こった一六三七年頃には、幼い善人である天の使いがこの世に出現し、人々を救いに導くという終末的予言が、島原・天草のキリシタンの間では信じられていたのです。この天人・神の使いこそ天草四郎であり、神の使いに召し出された者たちがこの一揆に参加した者たちである、そう捉えられるようになっていきました。四郎は、この世の救世主にして、不死の生命を宿し、カリスマ(特別の超能力・霊能)を持つ者として、一揆の象徴となっていました。四郎がイエスさまと同じように、島から島まで海の上を歩いて渡ったという話も、広く信じられていた

「全世界に行って福音を宣べ伝えよ」はイエスさまが昇天される前に全信徒に言われたご命令です。私たちが世界を駆け回るのには困難なことです。友人をクリスマスのミサに誘うぐらいならできそうなものでも、それも「困難だ」と言われる方は、五月二日から教区本部で開かれる宣学校に足をお運び下さい。これは小道具を使って聖書を分かりやすく体験させる研修会です。講師はパリ外国宣教会の司祭や純心学園で宗教を教えておられるシスター、そのほかラサール学園の講師、主婦といった面々です。宣学校は世界

の反乱に成長していったのは、象徴となった宗教的支えの天草四郎の存在があったればこそと言えましょう。何が起ころる時には、第二公会議を起こされたヨハネ二十三世、愛の宣教師会のマザー・テレサのように、必ず、象徴となるカリスマ的指導者が必要とされてきます。加えて、一揆を指導していった指導者達は、シンボ

#### みことばシリーズ

#### 福音を伝えよ!

終身助祭 久保俊弘

六十四か国に二千校ほどありますが、日本では鹿児島のほか伊賀上野と長野にあるだけです。

福音宣教は聖霊が導くもので、人間の力だけではなかなかできません。聖霊

した多くの実りの一つであり、新しい聖霊降臨の動きに敏感なグループが教会生活の中で生み出した貴重な霊的実りについて私たちが感謝せずにはおられません。どれほど多くの信徒、

青少年が自分自身の生活の中で聖霊の驚くべき力とその賜物を体験することができたでしょう。信仰と祈りの喜び、神のことばの力と素晴らしさを再発見し、このすべてを教会の使命を果

士気を鼓舞させようとしていったのです。

しかし、不死身と信じられていた四郎は、戦死してしまします。

「四郎が不死身であること」を信じていたキリシタンたちは、この後、四郎生存伝説を作り上げていくようになります。「神の使者であり天使である天草四郎は、天草で戦死はしなかった。やがて十数年後に由井正雪となって復活し、『慶安の役(慶安四年一六五一年)を起すに至った』という説も、その一つと言えましょう。



#### 文芸

伊佐市 森 博伸

いくたびかこの御言葉に立ち止まる我が  
 つまずきの石の如くに

瀬戸内町 豊島 忠司

震災で九死一生得し人は家族のために死  
 ねぬと泣きぬ  
 生々し大震災の惨事より食事の菜の乏し  
 くなり来

鹿児島市 前田 儀子

天折の夫の書棚に並びあるキルケゴール  
 リルケなどリルケ読みゆく  
 白じろと泡立ち空を覆ふ桜咲くたび時  
 を意識す

純心学園 川上 和

東海の根こそぐ津波命のみ弥生の桜嘆き  
 散りゆく

愛光園 春山マリ子

園にての面会友と集まりぬささやか語り  
 い楽しいしらべ

#### 俳句

奄美市 林 明子

つかれたら休めばいい一言でほっとす  
 るよなはげましのうた

純心学園 川上 和

寒椿祈りもむなし散る命  
 イースターの輝く命地に満ちる

出水市 沖 弘子

花満開若き司祭の着任す  
 ザビエル教会

鹿児島市 徳永ノブ子

大震災日本中の四旬節  
 被災地に高く上げたし鯉のぼり

瀬戸内町 豊島 忠司

大津波瓦礫の中の卒業式  
 震災地祈り届けよと春の宵

霧島市 政 ノブ子

#### 集いと研修

- ◆信仰養成講座 5月12日(木) 午前の部 10時~12時/夜の部 19時~21時 中野裕明神父 教区本部2F会議室 500円
- 障害者の自立を考える「パッションの会」5月15日(日) 15時 鴨池教会
- ◆ホリスティック—人格—医療黙想「聖書と医学」坂本進神父 5月16日(月) 10時~12時 ザビエル教会1Fホール 受講料500円
- ホリスティック・スピリチュアルケア講座「聖書と医学」坂本進神父 5月17日(火) 18時30分~20時30分 ザビエル教会集会室 受講料500円

巡礼委員会主催

#### 国分・溝辺(聖血礼拝会含む)・始良教会訪問

実施:5月29日(日) 参加費:3,000円(昼食弁当代、茶話会代、貸切バス代含む)  
 募集人員:25人 申込・問合せ:徳永善博委員(☎090-3669-0423)まで。あるいは次の各小教区の担当者でもけっこうです。小浦雅敏・久留ひろみ(ザビエル教会)、桃菌淳一郎(鴨池教会)、當 賢一郎・當 二恵子(谷山教会)

※大分司教叙階式(6月26日)へも巡礼委員会でバスを手配する予定です。

たす惜しみない奉仕へと移し替えてきたことでしょう。今日このようになすべてのこのために私は聖霊に賛美し感謝したいのです。私たちが前教主と心を合わせて聖霊を賛美し感謝し、聖書を毎日少しづつでも読み、マリアさまに祈り、ミサにあずかってご聖体を頂きイエスさまと一致しましょう。その上で隣人を愛し、その人の上に聖霊を呼び求め、教会の楽しさやイエスさまの素晴らしさを証しすれば福音宣教はきつとうまいくでしよう。宣学校参加希望の方は(☎099-267-2375)久保まで。